

## 河内先生との思い出

林 明 人

今思い起こしてみると河内先生と初めてお会いしたのは、かれこれ30年前の私が大学院の修士課程1年で、先生が博士課程の3年の頃であったと思う。ちょっと年配の院生がいらっしゃるなあと思ったが、話をお聞きしてみると一度高校で専任教師をされた後大学院に入られたとのことであった。

しばらくすると先生からお誘いがあった。先生は千葉の海の近くのお寺から2時間半ほどかけて大学院に通われていた。先生いわく、美味しい魚が手に入るから皆で一度遊びに来ませんかとお誘いであった。無類の魚好きである私にとっては何より嬉しいお誘いであったことは言うまでもなく、他の院生の先輩と4、5名でお邪魔することとなった。広い部屋に通されるとすでに大きな刺盛りが用意されていた。他にも何かご用意していただいたはずであるが、私の記憶にはその刺盛り以外のものはすっかり抜け落ちている。私はその中で最年少であったが、他の先輩は20代半ばということもありあつという間に大きな刺盛りを平らげてしまった。すると先生はもう少し食べたいなあという我々の表情を察知され、もう一船買って来ると言われ初めのものと同じくらい大きなものを抱えて帰ってこられた。美味しい刺身をご馳走になり、お酒も頂きたい気持ちになりやつのことで帰りの電車に乗ったことが懐かしく思い出されるが、今さらながら先生の思いやりに感謝する次第である。

その後先生は助手に、そして外国語部の専任教員になられ、私の方は非常勤講師としてお世話になった後、やはり外国語部の専任教員として採用され先生と同じ職場で仕事することになるのである。また個人的には先生に非常勤の紹介をしていただいたりして大変お世話になった。先生も私も約2時間半近くかけて通勤していたため、「お互い遠いねえ」などと廊下ですれ違う時に声を掛

け合ったものでした。定年を前に辞められたのはお寺のことなど色々おありになつてのことと思いますが、今後は往復5時間の通勤（痛勤）時間から開放されゆっくと自らのお仕事に専念されることをお祈りする次第です。

## 小笠原先生との思い出

林 明 人

小笠原先生は、私が非常勤講師をさせていただいていた時に外国語部にいらっしゃるのは知っていましたが、実際お話をさせていただいたのは私が外国語部に専任講師として採用されてからでした。いつも笑顔を絶やさずおおらかに話される表情が印象的でした。これはもちろん先生生来のものということもあるでしょうが、そればかりかその体型も大いに関係しているのではと失礼ながら拝察（この言葉は先生がよく使われた）したものでした。

何度か先生の研究室に伺ったことがありましたが、一度カメラを持ってお邪魔したことがありました。というのは先生はとてもフォトジェニックで私はかねてから写欲をそそられていました。つまり、まん丸の顔の中に大きな目、そして太い眉毛、そして体型といい、私にはまるで優しい達磨さんといった風で、私の中ではかなり理想に近いお坊さんのイメージでした。出来上がった写真をお見せすると喜んで受け取っていただきました。先生はまだお持ちだと思いますが、私としては在職中のよい記念になればと撮らせていただいたのでした。

先生は大学の近くにもお住まいをお持ちでしたが、基本的には松本から中央線を使って通勤していらっしゃいました。私自身時々遅い時間になり出前を取ることもあり、その時は先生の研究室の電灯がついていれば、今夜は近くのお住まいに帰られるのだと勝手に判断し、一緒に出前を頼みませんかとお誘いし